

みんなの南アルプス

発行 南アルプス友の会 電話 054-221-2963 (事務局)



南アルプス写真・動画コンクール受賞作品 絶景の吊り橋 (c)山田 晴之

第12号発行

「南アルプスを未来につなぐ会」の活動が終了し、「南アルプス友の会」となってから初めての発行となります。

南アルプスでは、最近まで紅葉が見頃となっていましたが、山岳地帯には積雪が始まり、冬へと移ろいでいます。これからは季節の移りわりと美しい冬のアルプスの風景をお楽しみください。

さて、第12号では、南アルプスユネスコエコパーク登録の更新や、井川地域に開館した南アルプスユネスコエコパークミュージアム、他にも例年実施している防鹿柵整備と高校生による種子保存プロジェクト、ふじのくに地球環境史ミュージアムで開催されたイベントについてお知らせします。

南アルプスユネスコエコパークの登録更新

令和7年9月27日(土)に、中国・杭州で開催された「第37回MAB計画国際調整理事会」において、2014年に初めてユネスコエコパーク（生物圏保存地域：Biosphere Reserve）に登録された南アルプスユネスコエコパークの登録更新が正式に決定しました。

南アルプスユネスコエコパークは、静岡・山梨・長野の3県10市町村にまたがるエリアで、3,000m級の高峰と多様な生態系を有しています。高山植物やライチョウが生息し、生物多様性が際立つエコパークとして評価をされてきました。

2014年の認定以降、エコパークを管理運営する「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」を構成する10市町村のほか、参与として参画する国の機関や3県等は環境教育や持続可能な観光資源の活用などを通じて、自然保護と地域振興の両立に取り組んできました。

ユネスコエコパークの地位については、「生物圏保存地域世界ネットワーク(WNBR)」の定款により、報告書に基づいて10年ごとに定期的検討を行うとされており、「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」は登録更新に必要な「定期報告書」の作成を進め、登録10周年となる2024年度にユネスコ本部へ提出しました。

定期報告書には、過去10年間の自然環境の変遷データ、エコパーク関連の活動記録など、多岐にわたる内容が盛り込まれました。これらはユネスコの規定に基づき、厳格な審査を受けました。

その結果、南アルプスユネスコエコパークの定期報告書は「生物圏保存地域世界ネットワーク(WNBR)」の設ける基準を包括的に満たしているとされ、今回の登録更新に至りました。

登録更新の決定を受け、「南アルプス自然環境保全活用連携協議会」及び、構成10市町村では、さらなるエコパークの価値向上と理念の推進を図り、地域の皆様とともに事業展開を進めていきます。静岡県としても、協議会の参与として、構成する市町村と連携して事業を進めていきます。



南アルプスユネスコエコパークミュージアムが開館しました

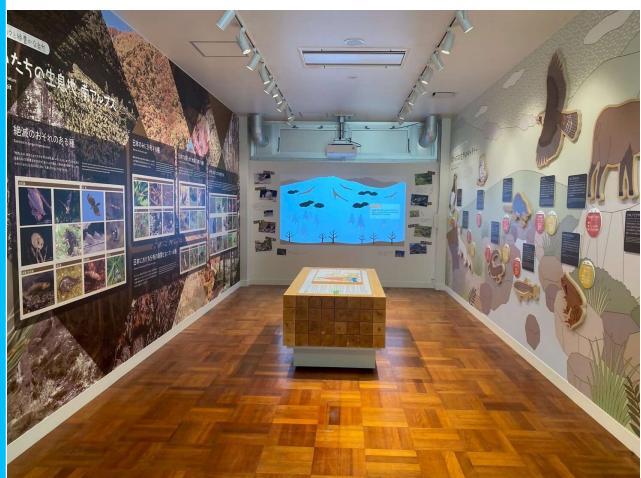
2025年7月に「南アルプスユネスコエコパークミュージアム」が、旧井川小学校を活用し、静岡市葵区井川にオープンしました。

南アルプスの「自然環境保全」「地域資源の利活用」「井川地域の活性化」の3つのテーマを軸にユネスコエコパークの理念を発信しています。

1階は南アルプスの魅力を紹介する展示室、2階には井川の在来作物などが楽しめる「レストラン赤石」や料理体験を楽しむことができる体験工房「スタジオいかわ」があります。



展示室2（映像スクリーン）



展示室4（南アルプスの生き物）

1階では主に南アルプスの自然や井川地域の歴史・文化が6つの展示室にわたって紹介されています。なかでも展示室2の「南アルプスパノラマシアター」では、8K映像でダイナミックな南アルプスの大自然を体験することができます。円弧上のスクリーンでは、雄大な自然に包まれる没入体験を楽しむことができます。また、展示室5では自然と共生してきた井川のくらしを学ぶことができます。井川地域で生産、使用されてきた民具の展示や、歴史文化の紹介から、個性的な独自の文化が色濃く残る井川地域の魅力を発見できます。

2階では在来作物やジビエを取り入れた、ここでしか食べられないグルメを取り揃えた「レストラン赤石」があります。南アルプスジビエバーガーをはじめとした自慢の一品を井川湖眺めながら楽しむことができます。また、体験工房「スタジオいかわ」では在来作物を使用した料理体験を楽しむことができます。希少な素材を実際に自分で料理し、食べてみることで、南アルプスの魅力を感じることができます。



ジビエバーガー
在来プレート

ぜひ、皆様のお越しをお待ちしております。

ミュージアムHP URL →



- インフォメーション
- ・住所 静岡市葵区井川708-1
- ・電話番号 054-347-3600
- ・開館日 木曜日～日曜日
- ・開館時間 10:00～16:00
- ・入館料 無料

南アルプスみらい財団活動報告

2025防鹿柵の整備作業完了！

静岡県内各地で紅葉が進んでいるこの頃ですが、南アルプスの山岳地帯では降雪が見られる場所もあり、季節は冬へと移ろいでいます。

さて、今回は降雪前に無事終えられた防鹿柵整備作業の内容について報告します。

・・・・・

南アルプスでは、短い夏の間に色とりどりの花が咲き、登山者を楽しませてくれていますが、その花々も増え続けるシカの食害によって姿を減らしつつあります。

県は、貴重なお花畠を守るため、南アルプスみらい財団やボランティアの方々と協力しながら、毎年防鹿柵を整備しています。今年は、5月には柵の立上げ、10月に冬期養生（柵の一時撤去）を行いました。



防鹿柵によって回復したお花畠(三伏峠)



損傷した鋼製支柱の撤去(聖平)

7月19～21日には、ボランティア17人と聖平の防鹿柵修繕作業を行いました。当日は、積雪等の影響で損傷した鋼製支柱を撤去し、新たに樹脂製支柱とネットを設置するという、例年より大変な作業となりましたが、ボランティア他参加者の活躍により、予定していた作業がすべて完了できました。

聖平の他にも、支柱の損傷が進行している箇所がありますので、引き続き皆様の御協力をよろしくお願いします。

10月3～5日には、荒川小屋の防鹿柵養生作業を行いました。同山域で防鹿柵を設置している環境省と合同で実施しており、各柵整備の委託先である(一財)南アルプスみらい財団及び(株)特種東海フォレストや、土地所有者である十山(株)、ボランティア16人が参加しました。

作業中はあいにくの雨でしたが、連携のとれたチームワークにより、無事作業を終えることができました。



冬期に備え、防鹿柵を養生(荒川小屋)

今後もお花畠を守る活動を続けてまいりますので、是非現地へ足をお運びいただき、お花畠を楽しんでいただければ幸いです。

南アルプス学会

おとなのナイトミュージアムにて南アルプスをPR

南アルプス学会の事務局である「ふじのくに地球環境史ミュージアム」では、初の試みとして20歳以上限定の「おとなのナイトミュージアム」を開催しました。

大井川源流部の南アルプスに社有林を有し、その場所の「井川蒸溜所」でウイスキーを生産する十山株式会社を招きトークイベント「南アルプスと生きる～奥山でつくるウイスキー～」を開催し、南アルプスのPRをしました。

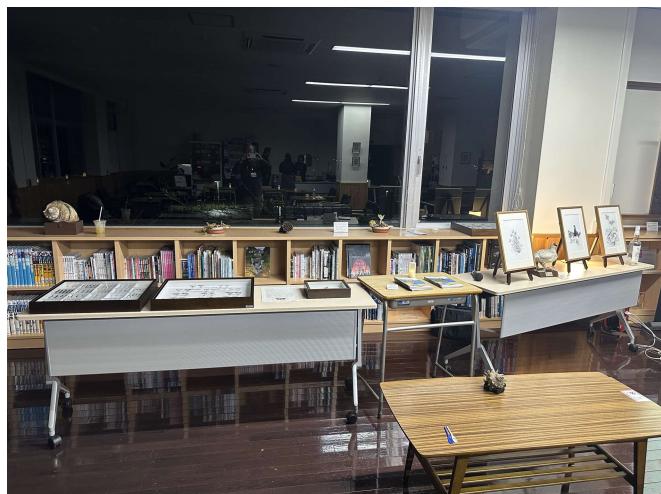
イベントでは、十山株式会社スタッフから、南アルプスの魅力とその保全への想いが語られ、その想いをもとに井川蒸溜所で作られているウイスキーの解説があり、その後、体験試飲を実施しました。

参加者からは「井川の自然の美しさとウイスキーの奥深さがわかって良かった」との声があり、照明を落とした夜の図鑑カフェのしっとりとした雰囲気の中で参加者の満足度の高いイベントとなりました。



トークイベントの様子

会場では、ライチョウの剥製や本誌第10号で紹介した南アルプス昆虫調査で得られた昆虫類の標本の一部を展示し、ミュージアムの研究員が解説を行いました。



南アルプスに生息する高山蛾なども展示

ウイスキーのラベルにも採用されているライチョウは南アルプスが生息域の南限となっています。国内では生息数が減少しており、絶滅危惧種ⅠBに分類されています。他にも種の保存法に登録されるなど、その希少性から国内でも活発な保全活動が行われています。



ライチョウ剥製とラベルのイラスト

南アルプスに足を運ぶことができない方も様々な接し方があります。ミュージアムでは企画展やイベントのほか、南アルプスを含む静岡県の成り立ちが分かる常設展示をしています。ぜひ、皆様のお越しをお待ちしております。

ふじのくに地球環境史ミュージアムHP→



高山植物種子保存プロジェクト

高校生が千枚岳で高山植物を観察

南アルプスの固有種など希少な高山植物の絶滅を防ぐため、絶滅危惧種の生息域外保存に携わる県内の高校生8人がこの夏、高山植物群落の観察のために千枚岳（標高2,880m）に登山しました。

今回参加したのは田方農業、富岳館、磐田農業の3校の生徒8人と顧問の先生です。

日頃から絶滅危惧種の発芽試験や観察に取り組んでいる生徒たちですが、南アルプスに訪れたのは初めての経験となりました。

登山初日は、椹島ロッヂにてその山深さに驚きつつも、ふじのくに地球環境史ミュージアムの早川准教授や、南アルプスみらい財団レンジャーからのミニ講義で、南アルプスについて改めて学びました。



早川准教授のミニ講義



高山植物群落の観察

快晴となった2日目は、いよいよ千枚岳山頂を越えて高山植物群落を目指します。約2時間の登山を経て、到着した植物群落（お花畠）には、南アルプスの固有種であるタカネマンテマや、アカイシリンドウ等が見られ、表土の様子や日当たりなどの生育条件をつぶさに観察できました。

生徒たちからは「はじめは不安が大きかったが、安全に登山でき、見識が広がった」「今後の研究に生かしていきたい」などの感想が寄せられました。

国内では南アルプスのみに生息する絶滅危惧種であるタカネマンテマは、本県がその生息域の南限に当たります。

県は、条例で採取や譲渡等を規制するとともに、野生個体の種子を採取し、冷凍保存することで保護を図っています。

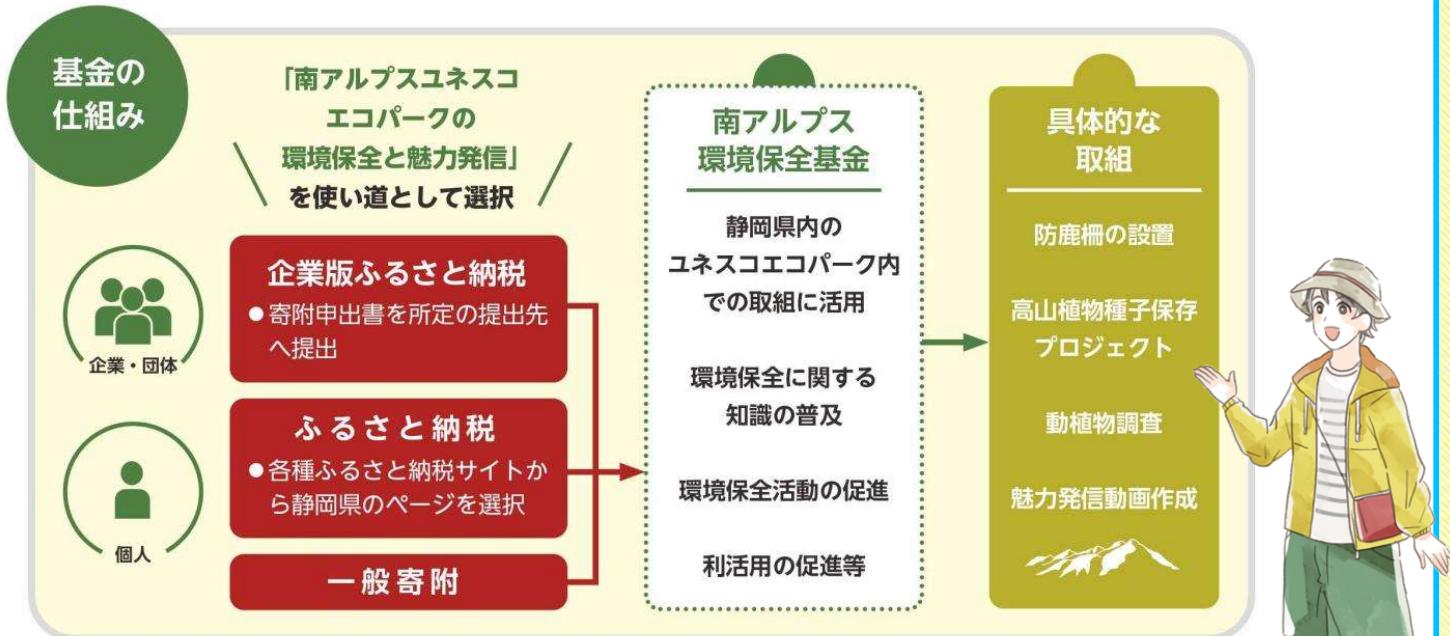
令和7年8月には、10年ぶりにタカネマンテマ野生個体からの種子採取を実施しました。人工環境下での種子の採取（増殖）の実現に向か、プロジェクト参加校と協力して進めていきます。



タカネマンテマの愕筒

南アルプス環境保全基金について

美しい南アルプスを未来に引き継ぐため、南アルプス環境保全基金への寄附をお願いいたします。



詳細は、静岡県公式ホームページを御覧ください



個人の方



企業・団体の方



基金を活用した静岡県の取組

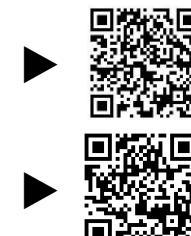
生態系保全の取組

- ・高山植物を守る防鹿柵の設置
- ・高山植物種子保存プロジェクト
- ・高山帯における昆虫等の調査
- ・南アルプスの研究に対する支援



魅力発信の取組

- ・YouTubeチャンネル
「みんなの南アルプス」
- ・環境学習サイト
「^{たからばこ}南アルプスの宝箱」



※寄附の詳細については、静岡県くらし・環境部環境局自然保護課までお問い合わせください。

編集後記

静岡県 くらし・環境部 環境局 自然保護課

「南アルプス友の会」を担当する西村です。初めて会報誌を担当させていただきました。また、今号は、会の名称が「南アルプス友の会」となってから初めての発行です。

私はこの4月から着任し、「防鹿柵の整備」を担当しております。これまでにはプライベートを含め、南アルプスに関わることが少なかったため、全てが新鮮で、貴重な経験をしています。

9月に三伏峠にある防鹿柵の整備に参加した際には、膨大な時間と労力があって、ようやっと復旧したものがこれなんだと感慨にふけっておりました。しかし、登山道の反対を見ればシカに侵入され、柵の内部も食害を受けた土地が広がっており、これだけの協力を得ても、自然の勢いに押されてしまうものかと難しさを感じていました。



また、先日は南アルプスユネスコエコパーク静岡地域連携協議会の森林継承プロジェクトに参加しました。これからも南アルプスに豊かな自然が引き継がれるよう願いを込めて苗木造りと植栽をしてきました。開催の様子は次号にて報告させていただきます。

「みんなの南アルプス」への御意見をお寄せください。

会報誌「みんなの南アルプス」の内容のほか、静岡県や南アルプスみらい財団、南アルプス学会の取組に対する御意見・御感想をお寄せください。

今後の南アルプスでの取組や誌面作りの参考とさせていただきます。

送付先は、以下のとおりです。

・県自然保護課メールアドレス

【shizenhogo○pref.shizuoka.lg.jp(○を@に変更してください。)】

YouTubeで南アルプスの魅力を発信中！

○YouTubeチャンネル「みんなの南アルプス」

